

吉川工業株式会社

Pick Up!

平成29年度

事業計画名

高品質コンクリート骨材生産ラインの構築事業

概要

天然砂利からのコンクリート骨材製造時に含まれる軽石、木屑等が完全に除去できず、コンクリートの品質に悪影響を及ぼしている。

最先端の選別装置と品質管理システム開発により高品質コンクリート骨材生産ラインを構築する。

分類

＜対象類型＞ ものづくり技術

＜事業類型＞ 一般型

成果

Hi・ウッズ・セパレーター導入により、軽石、木くず等不純物を効率的に除去する骨材生産ラインを構築した。

このことにより、骨材の品質向上、生産力アップ、安定供給、コスト削減が可能となり、経営上の売上アップ、利益獲得に繋がるものと期待している。

平成30年度

事業計画名

高品質コンクリート骨材生産ラインの生産性向上事業

概要

込レキ・竜石以上の骨材の破碎作業の生産性が低く、また骨材の原価管理と二次加工費等の採算性が不明である。

このため、最先端のバケットクラッシャー設備の導入と骨材の原価及び採算性を把握し高品質コンクリート骨材生産ラインの生産性向上を図る。



再生骨材製造プロセス



Hi・ウッズ・セパレーター



砂利製造プラント

好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

吉川工業株式会社（飯田市）

目指すのは「つねにゴミゼロ」。
高品質コンクリート骨材製造で地域インフラを支える老舗企業。

安定供給が社会的責任

2027年に開業が予定されているリニア中央新幹線。長野県内でも工事が本格化しつつあり、長野県駅ができる飯田市や伊那谷エリアを中心に、その経済波及効果に期待が高まっています。

吉川工業は、流域面積が広い天竜川の豊富な砂利資源を活かし、早くから企業として砂利採取事業に参入。安定供給を目指し、ドレッジャーや自動化機械による陸選プラントの導入に先がけて取り組み、建設業や産廃事業にも進出してきた老舗企業です。現在、砂利・碎石を中心に、再生骨材販売、建設廃材リサイクルにも力を入れています。

「かつて伊那谷では、中央道西宮線、恵那山トンネル工事で砂利の供給が追いつかないという経験をした。リニア中央新幹線工事が始まり、また同じような現象が起こらないよう砂利を安定供給することが、当社の社会的責任と考えています」。

そう話す吉川社長がもう一つ喫緊の課題ととらえるのが、コンクリートの品質向上への対応。コンクリート体積の約7割を占める骨材の品質が、コンクリートの品質に大きく影響するからです。砂利プラントでは砂利を水で洗浄し、ふるいにかけ、さらにゴミ取りマシンを使って草木、ゴミなどを除去し、さまざまなサイズに選別します。しかしゴミを完全に除去するのは困難でした。



さまざまなサイズに選別された砂利

『つねにゴミゼロ』を目指して

建設工事の全工程で徹底される品質管理。もちろん砂利もその例外ではなく、ハイレベルな品質が求められています。



ゴミを徹底的に除去した製品

そこで同社では、最先端の選別装置と品質管理システムによる高品質コンクリート骨材生産ラインの構築に着手。平成29年度補正もの

づくり補助金を活用し最先端の選別装置「Hi・ウッズ・セパレーター」を導入しました。



製品の出荷

「従来のゴミ取りマシンはそのまま使い、導入した装置でさらにゴミを除去。製品を最終的に人が目で確認し、取りきれなかったゴミを除去する。そこまで徹底し『つねにゴミゼロ』を目指しています」。

新たな装置の導入にともない、ふるいの元から水量を相当量増やすことになり、ポンプなど追加の設備投資もかさみました。ところがその結果、ふるい効率が高くなり生産力が5割も向上。最終製品のチェックや管理作業も減り、経営に大きく貢献していると吉川社長は喜びます。

砂利事業は砂利を供給することでインフラ整備を支えるとともに、河川のしゅんせつにより、水害から地域を守るという二次的な社会貢献も果たしています。「官民が連携して河川環境を安全に



Hi・ウッズ・セパレーターを備えた高品質コンクリート骨材生産ライン（手前）

整えることで災害から地域を守る。この大切さを広く知ってもらい、砂利事業に対する理解と意識向上につなげたい」。吉川社長の言葉に力がこもります。



吉川工業株式会社

代表 代表取締役 吉川 篤
設立 1958（昭和33）年10月
従業員数 7名
資本金 2,000万円
管理センター 飯田市嶋73



TEL.0265-26-9041 FAX.0265-26-7409
事業内容 砂利製造販売、再生骨材販売、建設廃材リサイクル

企業サイト <https://www.yoshikawakogyo.com>
販売サイト <http://www.jari-suna.com>